Terra Drone

エアモビリティの可能性を拓く

グロース市場上場やスタートアップ大賞も

次世代エアモビリティの旗手として急成長を遂げている「テラドローン（東京都渋谷区、徳重徹社長）」は、ドローンや空飛ぶクルマといったエアモビリティの可能性を切り拓き、国内外で幅広い事業を展開している。創業者の徳重社長は、シリコンバレーで新産業を支援した経験を活かし、電動バイク事業「テラモーターズ」、そしてドローンの開発からサービス提供までを一貫して担う現在の会社を設立。設立からわずか9年で東京証券取引所グロース市場への上場を果たし、従業員は世界で600人を超えるまでに拡大した。欧米、東南アジア、日本と、グローバルに事業を推進する同社の歩みと戦略を、取締役の神取弘太氏に聞いた。（片山宏美）

Terra Drone
株式会社
取締役
神取　弘太氏

――御社の設立から今日までの流れについてお聞かせください

神取　当社代表の徳重は、九州大学工学部を卒業後、米国に渡り大学院でMBAを取得。インドで電動バイクを製造・販売する「テラモーターズ」、さらに16年にはドローンのハード・ソフトの開発から販売、点検・測量・農業分野でのサービス、ドローンの運航管理システムの開発と提供、海外向けの空飛ぶクルマの運航管理システムの開発などを手掛ける当社を設立しました。

当社の使命は、「低空域経済圏のグローバルプラットフォーマー」としてドローンや空飛ぶクルマといったエアモビリティの可能性を広げることです。点検や測量はもちろんですが、今後は物流し、同分野の産業発展になどにも活用を進め、約150m以下の低空域を活発化させることを目指しています。

国内では東京、北海道、事業を展開し、西日本、九州に拠点を設け、海外では米国、オランダ、ベルギー、サウジアラビア、インドネシアに展開しております。今年1月時点での従業員数は国内120人、海外を含めると618人に達しました。

東南アジアでは農業分野へのドローン活用が中心、サウジアラビアでは石油プラントやインフラ施設の点検が主な用途です。欧米では、オランダで点検業務を展開し、ベルギーやアメリカのグループ会社ではドローンの運航管理システムを開発・提供しております。海外売上比率は全体の半分を超えている状況です。

「日本スタートアップ大賞　2025」授賞式の様子

東京証券取引所のグロース市場に上場

――2021年に「Terra Xross 1」を、22年に「Terra Xross 2」を発表されました。

神取　Terra Xross 1は、ドローンの機体の下に4つのアームを取り付けた起工・出来形測量用の機種です。

――Terra Xross 2は、どのような機種ですか

神取　Terra Xross 2は、Terra Xross 1の機体の下に4つのアームを取り付けた起工・出来形測量用の機種です。

――Terra Xross 1は、どのような機種ですか

神取　Terra Xross 1は、Terra Xross 2と同様に、